

平成13年5月8日

報道関係者 各位

社団法人 日本事務機械工業会

社団法人 日本事務機械工業会（会長 御手洗 富士夫）は、複写機の平成13年第1四半期出荷実績に関し、下記の通り発表します。

記

1. 出荷実績

（単位：台／百万円）

		2001年1月～2001年3月（第1四半期）			
		台 数		金 額	
	品種名	出荷実績	前年同期比	出荷実績	前年同期比
国内	アナログ	53,322	90.3%	5,478	63.6%
	デジタル	130,766	103.9%	60,785	109.8%
	カラー	15,649	89.1%	14,007	98.0%
	計	199,737	98.6%	80,270	102.5%
輸出	アナログ	56,690	70.1%	9,170	53.1%
	デジタル	136,695	83.4%	55,543	93.3%
	カラー	19,134	77.8%	17,238	70.1%
	計	212,519	78.9%	81,951	80.8%
合計	アナログ	110,012	78.6%	14,648	56.6%
	デジタル	267,461	92.3%	116,328	101.2%
	カラー	34,783	82.5%	31,245	80.4%
	計	412,256	87.4%	162,221	90.3%

2. コメント

- ① 複写機全体で見ると、輸出がここに来て停滞しており、今四半期では、台数・金額共に前年実績を下回った。一方、全般的に出荷機械の単価が上昇傾向にあり、台数の落ち込みに対して金額の落ち込みは抑えられている。
- ② デジタル機については、国内が従来通り好調であり、金額前年比で約二桁台の増加を示し、カラー機を含めた国内・輸出を合わせたデジタル化率は、台数で約73%、金額で約91%となった。（前年同期でのデジタル化率は、台数で約70%、金額では約86%）
- ③ カラー機については、昨年の伸びと比較しての輸出の落ち込みが目立ち、国内・輸出の合計で対前年同期に比べて台数で約17%の減、金額では約19%の減となった。

以上

☆本件に関するお問い合わせ：社団法人 日本事務機械工業会 複写機部会 事務局
伊藤 丘、武井 克与
（TEL:03-3503-9821 FAX:03-3591-3646）

平成13年第2四半期複写機の出荷実績について

平成13年第2四半期出荷実績(工業会自主統計)

(単位:台/百万円)

	品 種 名	2001 年 4 月～6 月 (第 2 四半期)			
		台 数		金 額	
		出荷実績	前年同期比	出荷実績	前年同期比
国 内	アナログ	25,089	55.1%	3,689	54.7%
	デジタル	122,983	98.2	61,210	105.7
	カラー	15,188	75.6	14,764	76.1
	計	163,260	85.5	79,663	94.8
輸 出	アナログ	41,644	66.3	7,353	65.7
	デジタル	114,239	73.9	47,325	88.0
	カラー	16,210	86.1	16,987	89.7
	計	172,093	72.9	71,665	85.4
合 計	アナログ	66,733	61.6	11,042	61.6
	デジタル	237,222	84.8	108,535	97.2
	カラー	31,398	80.7	31,751	82.8
	計	335,353	78.5	151,328	90.1

市場についてのコメント

1. 複写機全体で見ると、国内・輸出が共に停滞する傾向が続いており、今四半期では、台数・金額共に前年実績を下回った。一方、アナログ機からデジタル機の移行が続いており、結果として高機能化に伴う単価上昇のために、台数の落ち込みに対して金額の落ち込みは抑えられている。
2. デジタル機については、国内は好調を維持している。カラー機を含めた国内・輸出合計のデジタル化率は、台数で約80%、金額で約93%となった。(対前年同期でのデジタル化率は、台数で約75%、金額では約90%)
3. カラー機については、第1四半期と同様な傾向が続き、国内・輸出ともに落ち込みが目立ち、国内・輸出の合計で対前年同期に比べて台数で約19%の減、金額では約17%の減となった。

平成13年11月5日

報道関係者 各位

社団法人 日本事務機械工業会

社団法人 日本事務機械工業会（会長 御手洗 富士夫）は、複写機の平成13年第3四半期出荷実績に関し、下記の通り発表します。

記

1. 出荷実績

（単位：台／百万円）

		2001年7月～2001年9月（第3四半期）			
		台 数		金 額	
	品種名	出荷実績	前年同期比	出荷実績	前年同期比
国内	アナログ	27,882	55.9%	3,054	50.1%
	デジタル	110,938	95.6%	48,470	96.1%
	カラー	14,048	68.6%	12,710	61.7%
	計	152,868	82.0%	64,234	83.3%
輸出	アナログ	44,061	70.7%	6,636	57.2%
	デジタル	105,855	60.0%	44,744	65.5%
	カラー	17,223	111.8%	16,666	89.7%
	計	167,139	65.7%	68,046	69.1%
合計	アナログ	71,943	64.1%	9,690	54.7%
	デジタル	216,793	74.1%	93,214	78.5%
	カラー	31,271	87.1%	29,376	75.0%
	計	320,007	72.6%	132,280	75.3%

2. コメント

- ① 複写機全体で見ると、第2四半期での国内・輸出共に停滞する傾向から、今期は減少する方向へ流れており、台数・金額共に前年実績を下回り、特に輸出の落ち込みが目立つ。アナログ機からデジタル機の移行が続いている。
- ② 国内については、アナログ機の置き換えを担っているデジタル機は、昨年同期比の台数・金額から約5%程度の落ち込みであるが、カラーの伸びが鈍っており、全PPCでも前年の約8割を維持するに留まっている。
- ③ 輸出については、カラー機の台数の伸びが大きいですが、単価的には低くなってきており、金額としては前年同期比より落ち込んでいる。デジタル機も振るわず、全PPCでも前年の7割を切るまでになっている。

以上

☆本件に関するお問い合わせ：社団法人日本事務機械工業会 複写機・複合機部会 事務局
伊藤 丘、武井 克予
(TEL:03-3503-9821 FAX:03-3591-3646)

平成14年2月12日

報道関係者 各位

社団法人 日本事務機械工業会

社団法人 日本事務機械工業会（会長 御手洗 富士夫）は、複写機の平成13年第4四半期出荷実績に関し、下記の通り発表します。

記

1. 出荷実績

（単位：台／百万円）

		2001年10月～2001年12月（第4四半期）			
		台 数		金 額	
	品種名	出荷実績	前年同期比	出荷実績	前年同期比
国内	アナログ	26,961	73.4%	2,587	52.2%
	デジタル	100,906	98.7%	44,784	92.1%
	カラー	16,336	107.8%	17,754	119.8%
	計	144,203	93.5%	65,125	95.2%
輸出	アナログ	31,418	56.0%	4,737	44.9%
	デジタル	87,610	59.2%	36,108	71.1%
	カラー	13,587	90.3%	12,827	92.3%
	計	132,615	60.6%	53,672	71.3%
合計	アナログ	58,379	62.9%	7,324	47.2%
	デジタル	188,516	75.4%	80,892	81.4%
	カラー	29,923	99.0%	30,581	106.5%
	計	276,818	74.2%	118,797	82.7%

（参考）

（単位：台／百万円）

		2001年1月～2001年12月（年間累計）			
		台 数		金 額	
	品種名	出荷実績	前年同期比	出荷実績	前年同期比
国内	アナログ	133,254	69.7%	14,808	56.0%
	デジタル	465,593	99.2%	215,249	101.4%
	カラー	61,221	83.5%	59,235	85.7%
	計	660,068	89.9%	289,292	94.0%
輸出	アナログ	173,813	66.3%	27,896	55.1%
	デジタル	444,399	69.1%	183,720	79.0%
	カラー	66,154	89.5%	63,718	83.8%
	計	684,366	69.9%	275,334	76.7%
合計	アナログ	307,067	67.7%	42,704	55.4%
	デジタル	909,992	81.8%	398,969	89.7%
	カラー	127,375	86.5%	122,953	84.7%
	計	1,344,434	78.5%	564,626	84.7%

2. コメント

・第4四半期について

- (1) 本四半期は、複写機全体で見ると、国内カラー機出荷を除いては、アナログ機並びにデジタル機で国内・輸出双方で台数・金額共に、前年同期比で減少を示した。
- (2) 国内については、カラー機は順調に伸びており、金額面では約20%の増加を示したものの、アナログ機はデジタル機への置き換えのために減少し、デジタル機についても前年と同程度の推移となった。
- (3) 海外については、各社海外生産へのシフトを推進した事もあり、アナログ機の前年同期比で初めて50%を割り込み、デジタル機については、(第3四半期からは復調したものの) 出荷台数・金額とも前年を割り込んでいる。

・通年(累計)について

- (1) 国内・輸出共にアナログ機が前年に比べ減少し、デジタル機については国内は微増を示したものの、輸出では台数で30%、金額で20%の大きな落ち込みとなっており、このために複写機全体でも前年比で台数で約79%、金額では約85%となった。
- (2) 2000年の年間累計出荷実績は比較的順調に推移していたが、2001年は一転して国内・輸出共に落ち込みが目立つ年となった。

☆本件に関するお問い合わせ：社団法人日本事務機械工業会 複写機・複合機部会 事務局
伊藤 丘、武井 克予
(TEL:03-3503-9821 FAX:03-3591-3646)